



スミダESGレポート

2024

編集方針

この「2024 スミダコーポレーション ESG レポート」は、スミダコーポレーションの CSR 活動の概要をご紹介します。CSR に関する詳細な情報は、当社ウェブサイト（www.sumida.com/csr/）をご覧ください。本レポートにおける「スミダ」とは、スミダコーポレーション、スミダコーポレーションの100% 子会社、及びスミダコーポレーションの経営権を有する会社を指します。

このレポートは、2024年1月1日から2024年12月31日の期間について書かれたものであり、2025年4月に発行されたものです。CSRに関連する活動を行う際には、社会的責任をスミダの価値観と実践に組み入れるために、ISO26000のガイドラインを参考にしています。

本レポートに記載されている将来の見通しに関する記述は、発行時点における当社の予想及び仮定を反映したものです。これらの記述は、さまざまなリスクや不確実性の影響を受け、実際の結果が予測とは大きく異なる可能性があります。

本レポートに掲載されているESGデータは、報告基準、データ収集方法、その他の要因の変更により修正する可能性があります。データの質が時間の経過とともに向上した場合は、当社のウェブサイト上でESGデータを適宜更新します。当社は正確性と完全性に努めていますが、本データは確定的なものではなく、あくまでも指標とお考えください。

目次

会社紹介	1-10
業績概況	11-12
CEOメッセージ	13-14
CSR 活動報告	15-23
最新企業情報	24-25
スミダの歴史、沿革	26

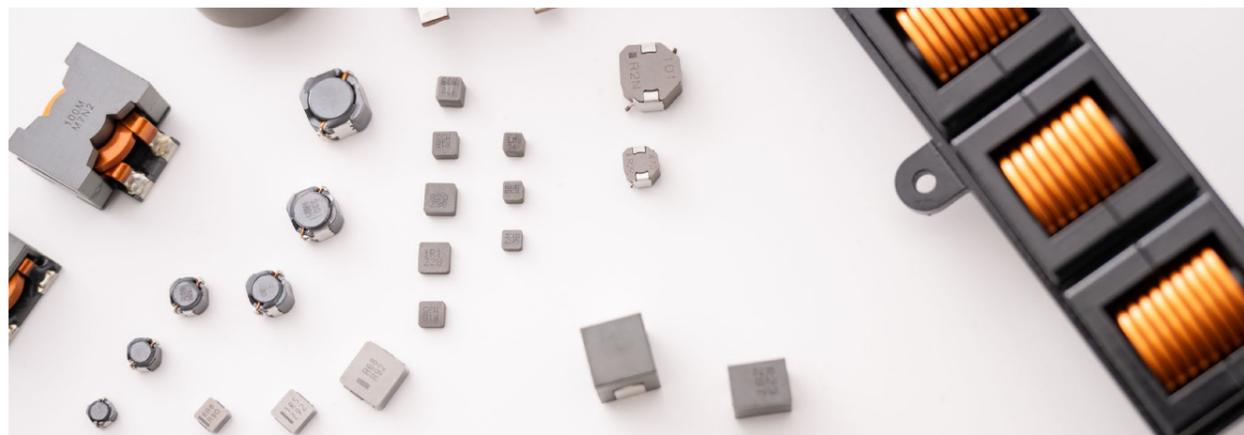
“技術と人の架け橋”

我々のビジョンは、時代を超越した企業として、我々の想像力に富んだアイデアを実現し、世の中にパワーと勇気を与えるためのソリューションを提供する業界のリーダーとなることです。

スミダは、コイル関連の部品及びモジュール製品の設計と製造におけるグローバルリーダーとして、カスタム設計のソリューションの提供を得意としており、その製品は、家電製品・自動車・グリーンエネルギー・産業機器・医療機器の多岐にわたるアプリケーションに使用されています。

スミダの主要製品には、パワーインダクタやトランス、自動車用キーレスアンテナ、モバイル通信機器、RFIDタグ、太陽光発電用パワーインバータ、及び産業用照明器具のソリューション用部品といった様々な部品やモジュール製品が含まれます。また、その他製品として、磁性材料、セラミックス、フレキシブルコネクタ、更にEMSサービスも提供しています。

スミダは、アジアで60年以上、ヨーロッパで90年以上の実績があり、これにより培われたコイル関連の技術的設計及び製造に関するノウハウを活用して、お客様に標準品とカスタム設計ソリューションの両方を提供しています。また、これまで積み重ねた広範囲の製造技術を駆使して、高い品質基準を安定的に維持しつつ、製造数量や製造場所に関するお客様の要望に柔軟に対応いたします。スミダは、このようにして様々なお客様と長期的な信頼関係を築き上げてまいりました。



スミダの強み

他社に負けない優れたソリューションプロバイダ

スミダは、エレクトロニクス業界の主要市場におけるリーダーとして60年以上の実績があり、ベーシックなコイルから複雑な付加価値を持ったモジュール製品までの設計及び製造をすることができます。

コイル関連技術のトップエキスパート

スミダは、コイルをベースとした製造技術のスペシャリストとして、コイル関連の設計から製造まで全ての範囲の専門的なサービスをお客様にご提供いたします。

グローバル展開 - 世界に広がる現地サポート体制

我々は、チームスミダとして、お互いに補完し合う知識と経験を持っていることを誇りとしています。スミダは、世界各地に販売と開発ネットワークを有しており、全世界のお客様の拠点で、アドバイスと技術サポートのサービスを提供することができます。また、業界が市場のグローバルリーダーに期待する高品質基準と事業の信頼性を維持しつつ、お客様のニーズに最適な場所で製品を作り、お客様の要求の変化に応じて生産資源を柔軟に調整することが可能です。

開発技術

素材・材料技術	磁性材料、セラミックコンデンサ、マンガン亜鉛フェライト、ニッケル亜鉛フェライト、金属粉末コア、軟磁性複合材料、柔軟な金属
アプリケーション	製品開発、磁気シミュレーション、回路シミュレーション、応力シミュレーション、回路設計、プリント基板レイアウト
生産技術	機器の開発、レーザー封止、レーザー剥離
精密加工技術	金型設計、金型加工、金型流動シミュレーション
巻線技術 (中核技術)	リニア巻線、直交巻線、トロイダルコア巻線、ニードル巻線、ヘリカル巻線、アルファ巻線
成形技術	射出成形、インサート成形、低圧封止成形、封止成形、Pin draw Molding、メタル射出成形、真空封止、プラズマ処理、フェライト射出成形、成形、塗装、プレス技術、電気メッキ
表面処理技術	はんだ付け、アーク溶接、レーザー溶接、パルス加熱溶接、抵抗溶接、超音波溶接、圧入ピン (pin to PCB)、圧接・固定、Board to Board Connection
評価技術	信頼性試験、透過型X線・CTスキャン、SEM/EDX、イオンクロマトグラフィー、熱分析 (各種方法)、全自動走査型顕微鏡、誘導結合プラズマ分光法、温度による透磁率測定、レーザー回折法

製品ガイド



パワーインダクタ・RFインダクタ
面実装タイプ、ピンタイプ、デジタルアンプ用LPFコイル、巻き線チップインダクタ



シグナルマグネティクス
RF/通信、RFID、アンテナコイル、他



センサ・アクチュエータ
ロータポジションセンサ、ABSコイル、ソレノイドコイル



パワートランス・リアクトル
面実装タイプ、ピンタイプ、PoEトランス、ストロボ用昇圧トランス、スイッチング・パワーサプライ、リアクトル、非接触給電コイル



車載用モジュール
インバーター用チョーク・モジュール、モジュール・コンポーネント、コンポーネント・キャリア、パワー・コンバージョン、コンポーネント&モジュール



磁性材料、セラミック部品、EMS、フレキシブル・コネクション
セラミック受動部品、電子製品製造サービス(EMS)、フレキシブルフラットケーブル



EMC・チョーク
ACパワーライン、DCパワーライン、ノーマルモードチョーク、コモンモードチョーク



EMI / EMCフィルター
DCラインフィルターモジュール、CMCフィルターチョーク、DMフィルターチョーク



医療機器用コンポーネント
通信用アイソレーショントランス、アイソレーショントランス

重点分野



ソレノイドとアクチュエータ



Lithium-ion Battery Pack

車電池/パッシブエントリー



E-モビリティ



ソーラーシステム



工業/医療



省エネルギー/LED



インフラストラクチャー



エンターテインメント



家電製品



重点分野: 車載関連

- アンテナ: イモビライザーアンテナ, スマートキー車側LFアンテナ, スマートキー車側RXアンテナ, フレキシブルボードコネクタ
- LED: ヘッドライト駆動回路の電源用コモンモードチョーク, フレキシブルボードコネクタ
- コモンモードチョーク, パワーインダクタ, 電源トランス
- 高耐圧トランス, フレキシブルモジュール, HV入力インダクタ, 可変容量コンプレッサコントロールバルブ用アクチュエータモールドコイル, EMCチョーク
- シフトロック, エアバッグ, ECU: パワーインダクタ, RFチップインダクタ, ZIFジャンパーケーブル, バッテリーチョーク, 棒コイル
- インジェクション: インジェクションモールドコイル, ディーゼルスターター
- トランスミッション: CVT油圧制御用アクチュエータモールドコイル
- ビスカスクラッチ: AWDエンジンファン, CAN BUS: 超音波素子駆動用昇圧トランス, コモンモードチョーク
- ABS/ESC, バックソナー
- 液晶テレビ: ノーマルモードチョーク, コモンモードチョーク, Class-Dアンプ用LPFコイル, LANトランス, モデムトランス
- デジタルカメラ: フレキシブルフラットケーブル/ボードコネクタ, コモンモードチョーク, レンズ用低漏洩磁束インダクタ
- エアコン: ACラインフィルタ, 電源トランス, ノーマルチョーク, リアクトル, コモンモードチョーク
- プリンタ: パワーインダクタ, Dコモンモードチョーク, 電源トランス, ノーマルモードチョーク
- 家庭用電化製品: パワーインダクタ, ACラインフィルタ, 電源トランス
- ノートPC: フレキシブルボードコネクタ



重点分野: 車載関連 xEV

メカニカル駆動力 → 電力 → エンジン → 発電機 → 動力分割機構 → モーター → 車 → バッテリー → インバータ → 車 → 充電機

- フィルタモジュール: カスタム設計, 最大800Vの電圧, 300Aまでのアンペア数, 安全基準に準拠, 昇圧インダクタ
- インバータ向けゲートドライブトランス: IGBT & SiCドライブ, 電源トランス, パワーインダクタ
- 内部電源用のSMPS, ADAS & BMS: Li-ionバッテリー, 監視用絶縁トランス, バッテリー過電流保護コイル
- 車載充電器(OBC): 電源トランス, フラットケーブル, パワーインダクタ, カレントトランス, PFCモジュール
- DC-DCコンバータ for HVDC: 結合型リレーインダクタ, 電源トランス
- EV急速充電器: ゲートドライブトランス, 電源トランス, チョークモジュール
- EV向けワイヤレス給電: ワイヤレス充電, マatchingトランス
- RPS: HEV/EVモーター制御・ロータ位置センサ, SMD-R
- FOR MILD HV (BSG/ISG): 大電流, パワーインダクタ, パス



重点分野: 民生機器関連

- 携帯機器 (スマートフォン・タブレットPC) & ACアダプタ・ワイヤレス充電器: パワーインダクタ, 電源トランス, 非接触給電コイル, RFチップインダクタ
- LED照明: 電源トランス
- ゲーム機: DCラインフィルタ, ACラインフィルタ, LANトランス, モデムトランス, パワーインダクタ
- 液晶テレビ: ACラインフィルタ, ノーマルモードチョーク, コモンモードチョーク, Class-Dアンプ用LPFコイル, LANトランス, モデムトランス
- デジタルカメラ: フレキシブルフラットケーブル/ボードコネクタ, コモンモードチョーク, レンズ用低漏洩磁束インダクタ
- SERVER: パワーインダクタ
- ノートPC: フレキシブルボードコネクタ
- エアコン: ACラインフィルタ, 電源トランス, ノーマルチョーク, リアクトル, コモンモードチョーク
- プリンタ: パワーインダクタ, Dコモンモードチョーク, 電源トランス, ノーマルモードチョーク
- 家庭用電化製品: パワーインダクタ, ACラインフィルタ, 電源トランス



重点分野: 産業機器関連

- 太陽光発電: PFCインダクタ, ACチョーク, DMCフィルタ, チョークモジュール, リアクトル, 電源トランス
- 風力発電: DCリンクチョーク, エッチワイズコイル, フレキシブルボードコネクタ
- 通信機器電源用: アイソレーショントランス, コモンモードチョーク, 棒コアチョーク
- 信号: RFチップインダクタ, 電源トランス
- フォークリフト、ハイブリッド建設機械: 電源トランス & リアクトル, フラットケーブル, フレキシブルボードコネクタ
- 産業ロボット向けコントロールシステム: リアクトル, フレキシブルボードコネクタ, 電源トランス, パワーインダクタ
- 5G移動通信基地局: コモンモードチョーク, PoEトランス, パワーインダクタ
- 発電用インバータ: DC/ACリリクトル, 電源トランス
- セキュリティ、RFID: RFチップインダクタ, アンテナコイル, ACラインフィルタ, ノーマルチョーク
- 医療機器
- 油圧バルブコイル, ソレノイド

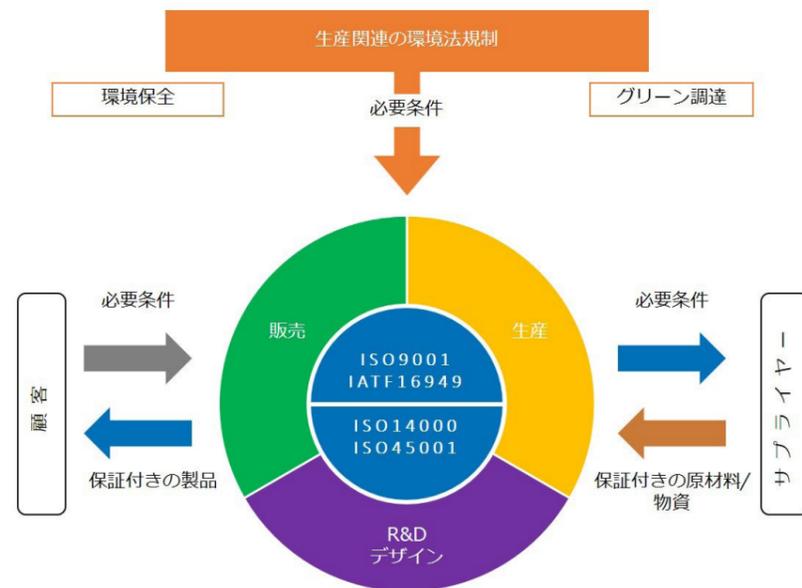


会社概要

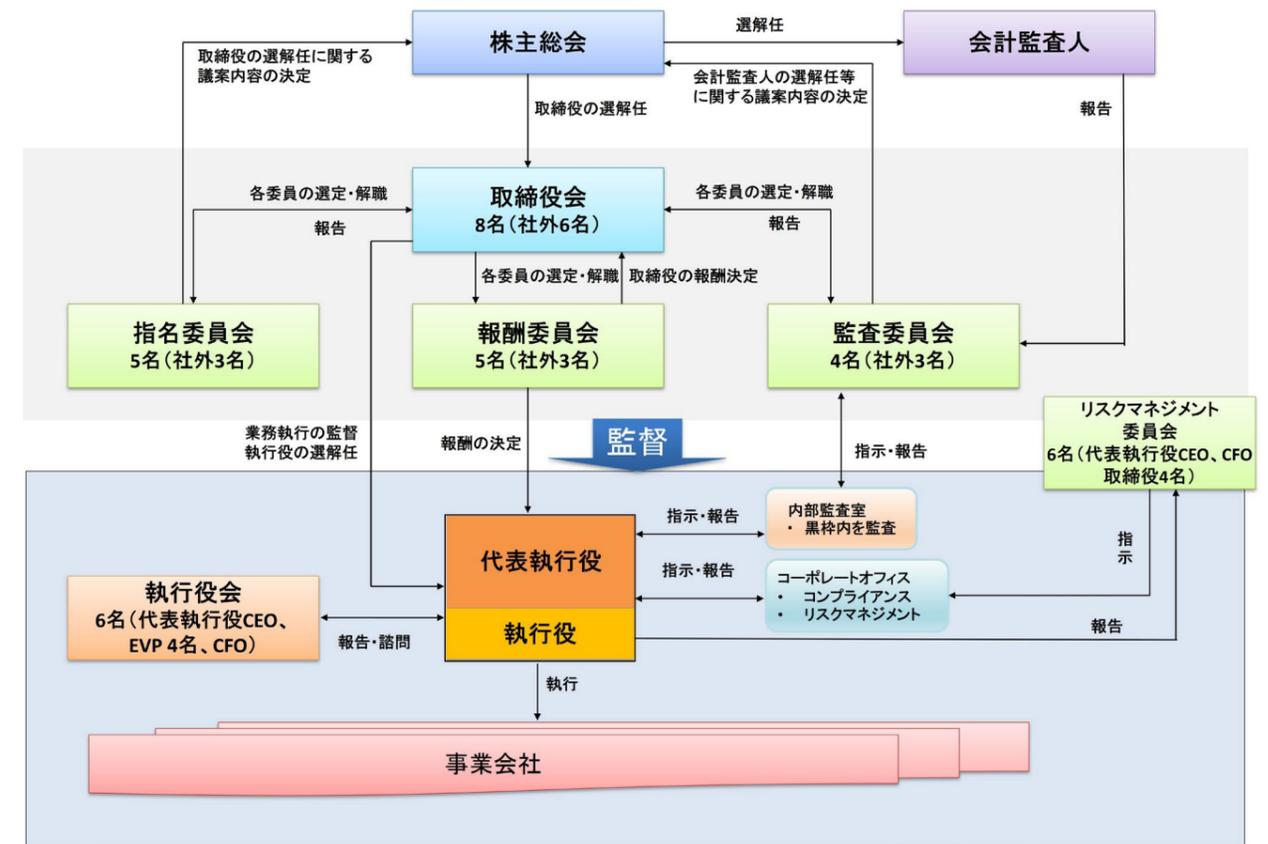
持株会社:	スミダコーポレーション株式会社; 東証プライム市場 (code: 6817)
代表者 (CEO):	堀 寛二
本社:	〒104-0042 東京都中央区入船三丁目7番2号 KDX銀座イーストビル7階 Tel: 03-6758-2470 Fax: 03-6758-2472
設立:	1956年 (昭和31年) 1月16日
資本金:	13,624百万円 (2024年12月31日現在)
連結売上高:	143,978百万円 (2024年12月31日現在)
従業員数:	14,662名 (2024年12月31日現在)
開発拠点:	日本、中国、アメリカ、ドイツ
営業拠点:	日本、中国、香港、シンガポール、台湾、タイ、韓国、アメリカ、ドイツ、インド
生産拠点:	日本、中国、ベトナム、タイ、メキシコ、ドイツ、ルーマニア、スロベニア、アメリカ
事業内容:	電子部品及びモジュールの研究・開発・設計・製造・販売

内部統制システムの整備の状況

内部統制システムとして、執行役の職務の執行が法令及び定款に適合し、かつ、効率的に行われることを確保するために、執行役は「スミダの経営に関する諸原則」に則り、妥当な意思決定体制の確保と運用及びそれらの監視を行うシステムを構築し、経営効率を高めるよう努めています。



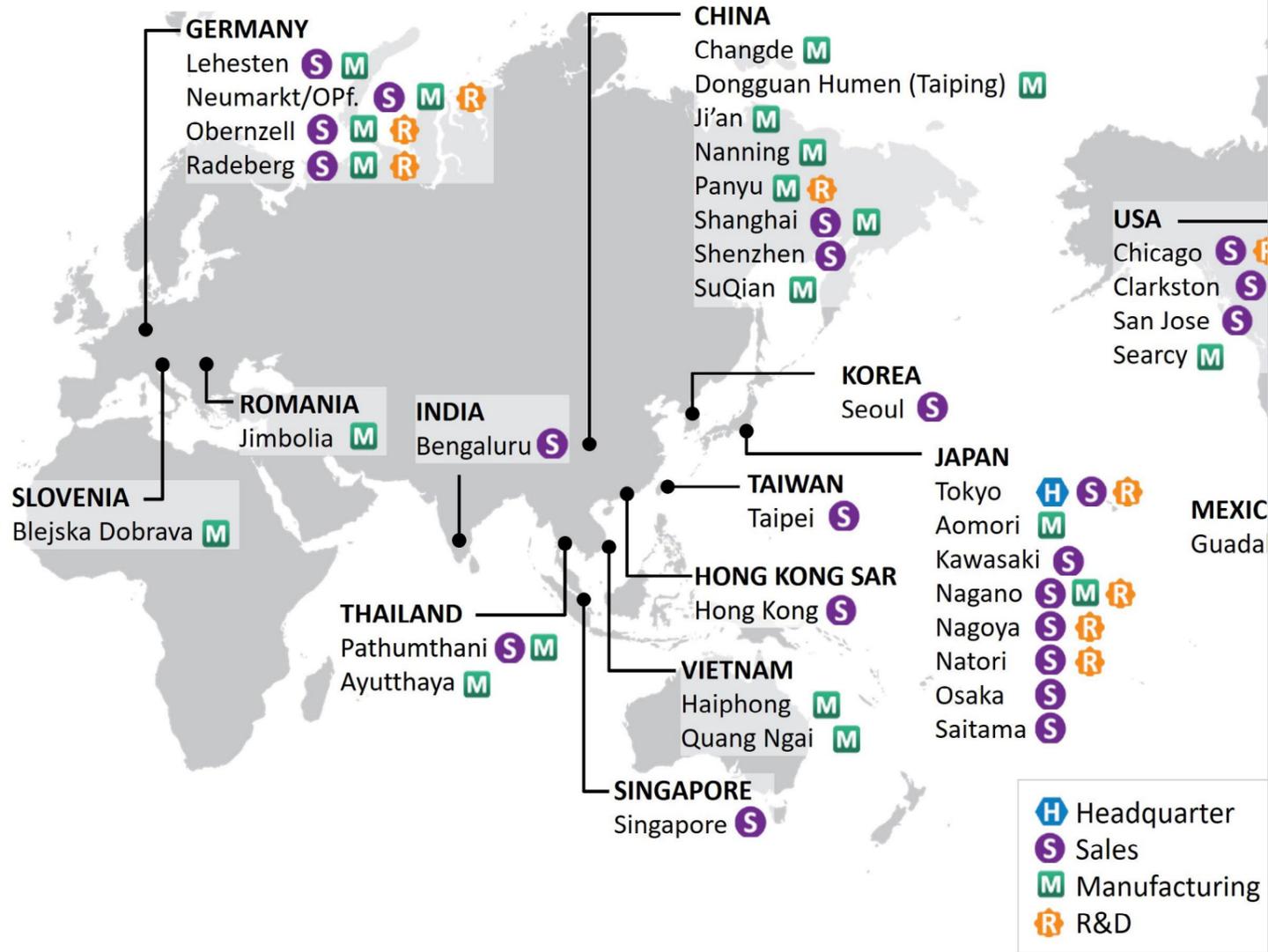
コーポレート・ガバナンス体系図



コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営の透明性及び効率性を確保し、ステークホルダーの期待に応え、継続的に企業価値を高めていくことがコーポレート・ガバナンスの基本であり、経営の最重要課題の一つであると認識しています。

グローバル展開
世界に広がる現地サポート体制



販売
10カ国22拠点
アジア15拠点
欧州4拠点
北米3拠点

製造
14カ国23工場
アジア14工場
欧州6工場
北米3工場

研究開発
4カ国10拠点
アジア5拠点
欧州3拠点
北米2拠点

CSR関連の認証

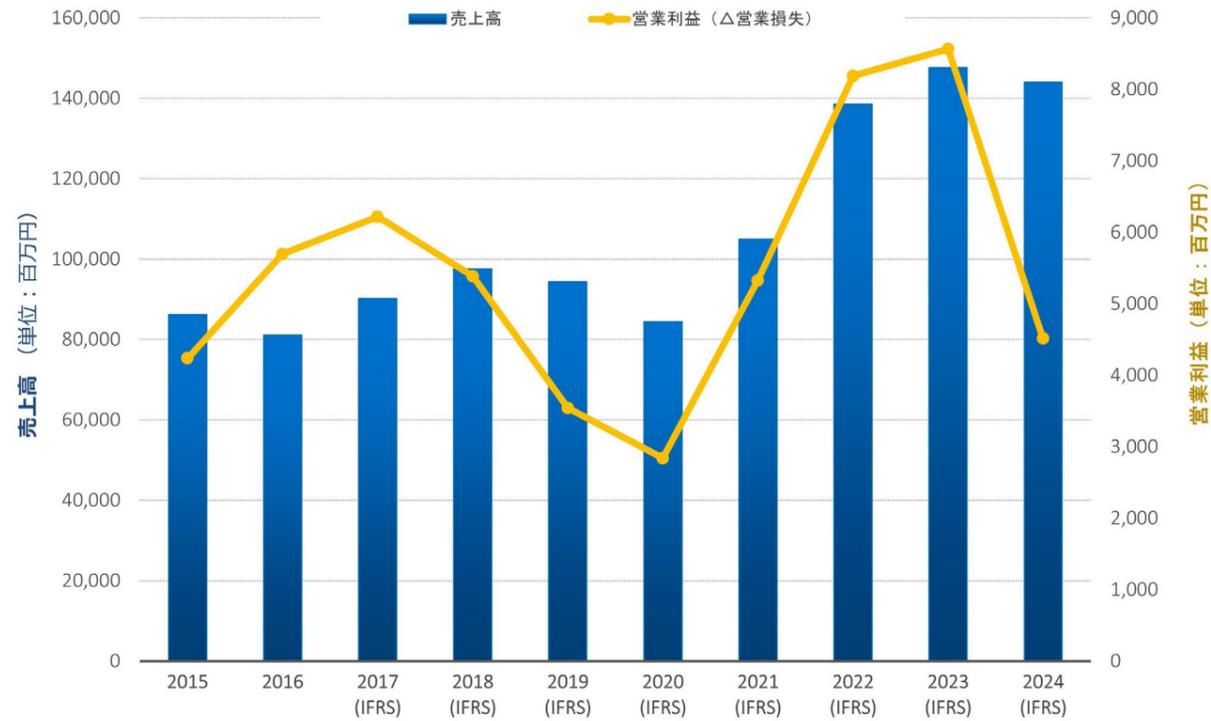
(品質、環境および労働安全衛生の認証のみ)
全ての認証は、ここをクリック

所在地	国	設立(年)	工場面積 (m ²)	従業員数*	月間最大生産数 (m pcs)#	ISO 9001:2015	ISO 14001:2015	ISO 14064-1:2006	ISO 45001	ISO 50001:2011	IATF 16949
Panyu (SHK)	China	1984	12,000	982	7.49	o	o	o	o	-	o
Dongguan Humen	China	1991	11,230	1,582	11.26	o	o	-	o	-	o
Nanning (SNM)	China	2008	5,175	759	18.80	o	o	-	o	-	o
Changde (SCD)	China	2010	9,241	919	13.40	o	o	-	o	-	o
Ji'an (SJA)	China	2010	21,242	1,836	12.66	o	o	-	o	-	o
Panyu (SGZ)	China	2011	32,000	2,534	28.84	o	o	-	o	-	o
Shanghai	China	1997	2,940	144	3.10	o	o	-	-	-	o
SuQian	China	2013	5,066	319	4.60	o	-	-	-	-	-
Aomori	Japan	1987	1,300	77	0.02	o	o	-	-	-	-
Nagano	Japan	1970	900	73	0.09	o	-	-	-	-	-
Hai Phong	Vietnam	2010	1,800	307	3.31	o	o	-	o	o	-
Quang Ngai	Vietnam	2015	13,440	900	6.47	o	o	-	o	-	o
Pathumthani	Thailand	1989	8,900	397	7.10	o	o	-	o	-	o
Ayutthaya#	Thailand	2024	1,710	35	0.12	-	-	-	-	-	-
Oberzell	Germany	1942	10,977	449	10.00	o	o	-	-	o	o
Neumarkt	Germany	1922	3,011	46	6.80	o	o	-	-	o	o
Lehesten	Germany	1965	2,468	166	0.90	o	o	-	-	o	o
Radeberg	Germany	1993	5,700	266	7.70	o	o	-	-	o	o
Blejska Dobrava	Slovenia	1997	3,756	304	3.30	o	o	-	-	o	o
Jimbolia	Romania	1998	12,100	617	7.50	o	o	-	-	o	o
Guadalajara	Mexico	1997	8,024	479	4.30	o	o	-	-	-	o
Clarkston, Michigan	USA	1954	5,481	201	1.10	-	o	-	-	-	o
Searcy, Arkansas	USA	1997	2,787	81	0.26	-	o	-	-	-	o

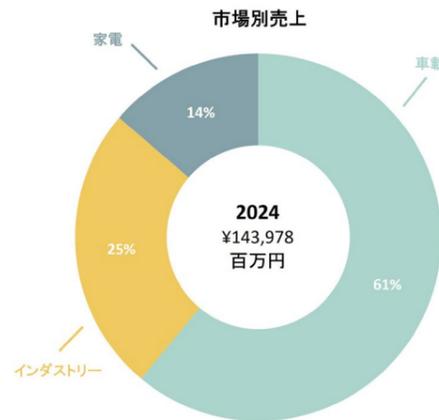
※ * 2024年12月現在 # 2024年月間最大生産数
その他の認証 FDA (米国食品医薬品局)、ISO 13485 (医療機器の品質管理システム)

業績概況

売上高と営業利益の推移

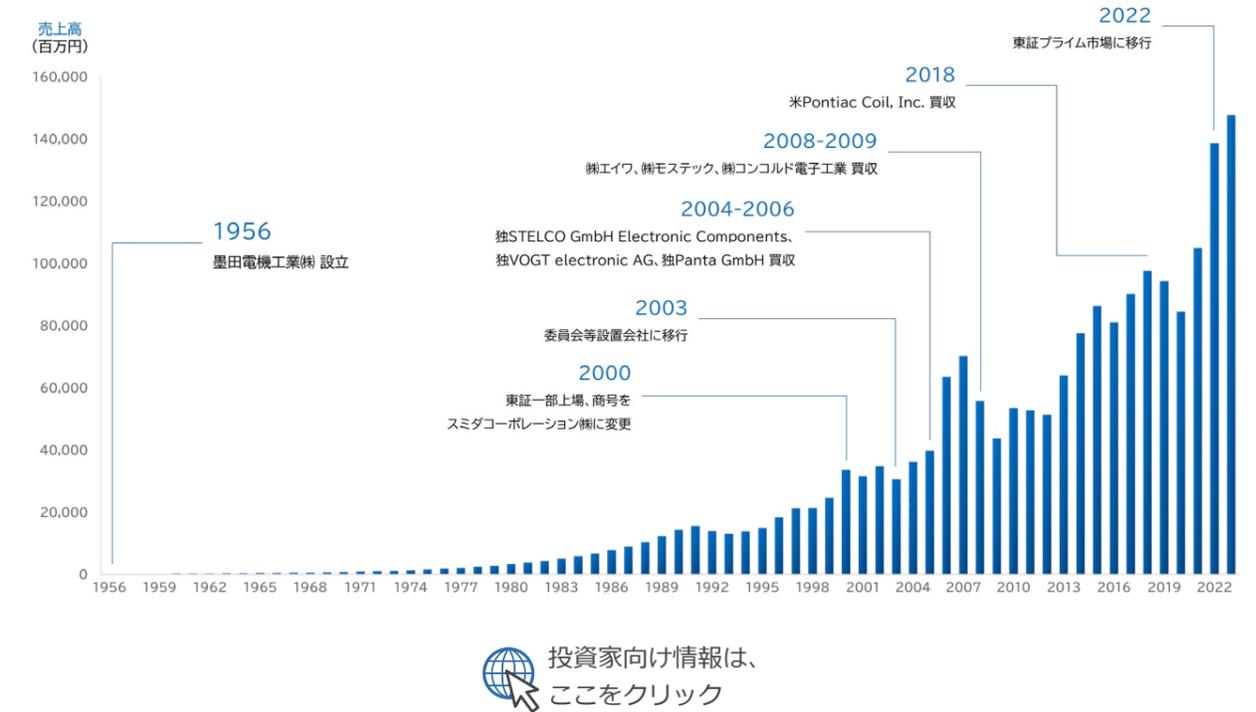


(単位: 百万円)	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
売上高又は売上収益	84,417	104,920	138,600	147,672	143,978
営業利益	2,838	5,326	8,189	8,564	4,513
売上高営業利益率又は売上収益営業利益率	3.4%	5.1%	5.9%	5.8%	3.1%
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社の所有者に帰属する当期利益	828	2,629	5,099	5,064	590
1株当たり当期純利益又は基本的1株当たり当期利益	31	97	188	167	18
総資産又は資産合計	98,063	117,725	134,846	142,786	147,766
純資産又は資本合計	34,557	40,101	48,877	57,312	60,915
1株当たり金資産額又は1株当たり親会社帰属持分	1,213.75	1,409.82	1,722.08	1,687.39	1,774.64



証券コード:	6817	
上場証券取引場所:	東証プライム市場	
決算期:	12月31日	
定時株主總會:	3月	
権利行使基準日:	12月31日	
一単元の株式数:	100株	
配当金支払い基準日	中間:	6月30日
	期末:	12月31日

設立からの売上高の推移



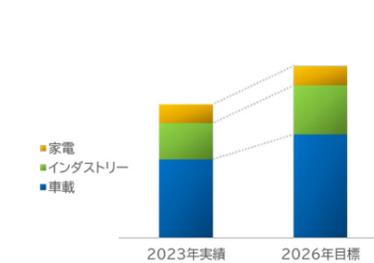
投資家向け情報は、
[ここをクリック](#)

中期経営計画期間の数値目標 (売上高・営業利益・EPS)

数値目標

売上高 **1,900** 億円
 営業利益 **135** 億円
 EPS **272** 円

市場別数値目標



(単位: 億円)	2023年 (実績)	2026年 (目標)	2023-2026 CAGR (%)	詳細
車載	868	1143	9.6%	EV・ハイブリッド・FCV関連等動力源を問わず大きく成長
インダストリー	401	543	10.6%	グリーンエネルギー、FAロボット、医療機器、宇宙開発関連が成長
家電	207	214	1.1%	AI普及を機に積極的にビジネスを獲得し、現在の規模を確保しつつ収益率の向上を目指す
合計	1476	1900	8.8%	

*2024年2月8日発表の中期経営計画より抜粋

CEOメッセージ

2024年、コイルのグローバル市場は、各地域の景気低迷、在庫調整、インフレ、高金利により成長が鈍化しました。全体として、車載、インダストリー、家電の市場は低調でした。脱炭素化の流れはグリーンエネルギー市場においては強いものの、景気低迷により個人消費が減少し、政府の補助金も減少したため、この市場も想定よりは苦戦を強いられました。電気自動車（EV）市場では、地域によって普及率が大きく異なります。中国や欧州の数力国が成長を見せた一方で、その他の地域では経済、インフラ、政策関連の障壁によりEVの普及が遅れました。政府の政策や規制の変更もメーカーや消費者に不確実性をもたらし、補助金やインセンティブの変化が市場動向や消費者の信頼感に影響を与えました。

(単位：百万円)	2023年実績	2024年実績	YoY
売上高	147,672	143,978	-2.5%
営業利益	8,564	4,513	-47.3%

年の前半は力強い勢いを持って始まりましたが、後半は不動産市場の停滞が続き、内需が低迷したため、中国経済は減速しました。米国では、高金利とインフレが個人消費を低迷させました。一方、欧州では、エネルギー価格の変動と地政学的混乱が自動車産業に大きな影響を与えました。

当社の2024年度業績

2024年度の売上高は1,439億7,000万円で、前年度比2.5%減となりました。固定費削減に努めたものの、欧州拠点の人員削減による合理化費用で営業利益は45.1億円と前期比半減となりました。加えて、ドイツでの補助金打ち切りやxEV市場の逆風などの課題もあり、通期見通しを下方修正しました。しかしながら、持続的な成長を確保するための収益力強化策は着実に進めています。当社は引き続き戦略的施策を継続し、イノベーションと効率化を推進し、力強い回復と長期的な成功に向けた態勢を整えていきます。

2025年度の見通し

2025年度に向けて、欧州では車載及びインダストリー関連の需要回復が緩やかに進むと見られ、依然として不透明な状況が続くと予想しています。また、関税

の問題や地政学的リスク、中国経済の動向等、さまざまな外部要因も事業環境に影響を及ぼす可能性があります。

このような厳しい環境下において、当社は欧州拠点での人員削減を含む構造改革を積極的に進め、事業基盤の強化を図ってまいります。

一方で、当社のグリーンエネルギー関連事業は引き続き堅調に拡大しており、今後も高品質なプロジェクトの獲得に注力してまいります。当該分野は、今後の成長を牽引する重要な柱と位置づけております。

市場別	(単位：億円)	2024年実績	YoY
車載		878	+1.2%
インダストリー		363	-9.5%
家電		197	-4.4%

地域別	(単位：億円)	2024年実績	YoY
アジア-グレーターチャイナ		367	+5.9%
アジア-その他		226	-10.1%
北米		266	+8.2%
欧州		579	-8.2%

気候変動と持続可能性の課題

気候変動は依然として重要な懸念事項であり、2024年には山火事、洪水、熱波などの異常気象が増加し、気候変動対策の緊急性が浮き彫りになりました。しかし、ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みに対しては、特に欧米で反発が目立ちました。その要因としては、政治的・経済的な反発、規制の変更による事業運営コストの増加、企業に対する責任のバランスへのプレッシャーなどが挙げられます。気候に関する報告書では、世界がパリ協定の目標を達成するには程遠

(単位：百万円)	2024年実績	2025年予想	YoY
車載	87,893	91,000	+3.5%
インダストリー	36,314	33,800	-6.9%
家電	19,770	19,200	-2.9%
合計	143,978	144,000	+0.0%

市場環境は依然と厳しく、前期比で横ばいの見直しになります。インダストリー市場、家電市場の落ち込みを車載市場がカバーする形になります。

いことが示され、野心的な目標と現実とのギャップが浮き彫りになりました。こうした力学は、サステナビリティと気候変動対策の複雑でしばしば相反する問題を反映しています。

持続可能性への取り組み

炭素排出量削減のための世界的な行動が急務であることは否定できません。私たちは2030年度までに温室効果ガス排出量（スコープ1および2）を2022年度比で42%削減するという目標を掲げています。さらに、脱炭素化関連分野には健全なビジネスチャンスのパイプラインがあると見ており、これを取り込むことを目指しています。エネルギー効率の高いパワーエレクトロニクスの成長市場をターゲットに、顧客やサプライヤーと協力してスコープ3の温室効果ガス排出量を削減するための製品設計関連の取り組みも推進しています。

私たちは、イニシアティブの優先順位を慎重に決め、事業成長の可能性を見極め、事業全体を通じて持続可能な慣行を構築することで、気候変動対策のための世界的な運動に取り組んでいます。私たちは長期的な持続可能性の目標を達成するために、慎重なアプローチをとり続けます。



堀 寛二
CEO
スミダコーポレーション

(単位：億円)	2023年実績	2024年実績	YoY
xEV - 車載	200	203	+1.3%
xEV - インダストリー (急速充電器等)	80	101	+25.8%
その他 (太陽光発電、蓄電池等)	86	84	-2.1%
グリーンエネルギー関連売上合計	367	389	+5.9%
グリーンエネルギー関連売上割合	24.9%	27.1%	+2.1pt

注1・2 参照

注

1. 車載用：快適性、安全性、ブレーキ関連など、xEVを含むすべての自動車関連アプリケーション
インダストリー用：医療、ファクトリーオートメーション、グリーン・エネルギー、通信インフラ関連アプリケーション
家電：家庭用及び個人用電子機器、白物家電関連アプリケーション

2. xEVセグメントは車載用とインダストリー用に分かれており、xEV-車載用は車両固有のアプリケーションを、xEV-インダストリー用は充電インフラアプリケーションをカバーしています。
グリーン・エネルギー関連市場：xEV-車載とxEV-インダストリー アプリケーションだけでなく、グリーン・エネルギー発電設備やエネルギー貯蔵ソリューションも含まれます。

CSR 活動報告

二酸化炭素の排出削減のためのソリューション

サステナビリティは、6つのコアバリューの一つとして、スミダの企業文化に深く根付いています。パワーエレクトロニクスのものでづくり企業として、環境に対する責任は私たちの哲学の重要な側面です。事業成長を目指すと同時に、環境への影響を低減するという適切なバランスを見出す努力は、2024-2026 中期経営計画の意思決定プロセスにおける基本原則です。

3つの優先事項：



スミダグループの技術開発と製品を通して二酸化炭素削減に貢献する。



資源の有効活用、廃棄物の削減、代替エネルギーの活用を推進して業務を遂行する。



スミダグループのあらゆるステークホルダーと共に国連開発計画が策定した17の持続可能な開発目標を達成する努力をし続ける。

Mid-term CSR Goals & Actions FY2024 - 2026 Plan	
環境 地球とその資源を大切に する: - エネルギーの効率化 - 廃棄物の削減と資源のライフサイクル - 持続可能エネルギーの採用 - 持続可能資源の使用 - 公害の防止	E1. SBTiへのコミットメントを通じて、温室効果ガス排出のスコープ1, 2 & 3の削減目標を設定し、その達成に向けたアクションプランを策定する。 業界のサプライチェーンにおける私たちの立場は複雑であるため、新しい中期経営計画のために、実践的かつインパクトのある2方面からの計画アプローチをとる: 1) スコープ1とスコープ2 (CCF) - スコープ1とスコープ2の温室効果ガス排出量を2022年度を基準として2030年度までに42%削減することを目指す。 - 太陽光発電の設置計画と実施 - その他の温室効果ガス排出削減対策について、場所ごとに行動計画を策定する。 2) PCFとスコープ3 - スコープ3の現状把握と分析の実施 - PCF算出のための初期試験的パイロットプロジェクト - デザイン4 サステナビリティ・ワークショップ・イニシアティブ
	E2. スミダコーポレーションの環境に関連した年次CSR開示の透明性を向上させる。
	CDPへの参加を継続する - 2024年の統合された新しい質問形式で、関連する環境問題を開示する。
	E3. 温室効果ガス報告及び排出量削減のためのサプライチェーンへの働きかけ
	[継続中] サプライヤーに対して、GHG排出量の削減を検討し、CDPを通じて環境活動を報告するよう意識を高め、奨励する。 スコープ3「購入商品・サービス」の排出係数データを改善する。



チャレンジ

当社グループは、2030年度の温室効果ガス(SCOPE 1 & 2)を2022年度比42%削減することを目指します。

獲得案件のパイプラインはグリーン関連を中心に積み上がってきている。世界的に拡大が見込まれる電力供給インフラ関連の需要を取り込んでいく。

1. 高効率化が求められるパワーグリッド / スマートグリッド関連
2. グリーン関連 (xEV, 急速充電器, 蓄電池 etc.)
3. 次の成長領域 (医療、防衛、宇宙開発、AI関連、データセンター、風力、特殊車両 etc.)
4. キーテクノロジーの開発 (オープンイノベーション)

Mid-term CSR Goals & Actions FY2024 - 2026 Plan	
ガバナンス 高い誠実性と持続力を備えた事業活動を行う: - コンプライアンスとリスクマネジメント - 製品の品質とセキュリティ - IT セキュリティ - 透明性 - CSR トレーニングと推進	G1. グローバルなスミダコンプライアンスシステムの強化 各国拠点からのタイムリー又は定期的なコンプライアンス事案の報告 定期的かつ継続的な社内コンプライアンス研修実施とグローバルコンプライアンスガイドラインの見直し
	G2. マネージメントへの透明性の増進により企業価値の向上と持続可能な成長の達成 社外専門家を活用して取締役会実効性評価を継続実施する。 取締役会における活発な議論を推進するため、メンバーに対するタイムリーで適切な情報の提供 株主を含むステークホルダーの判断の助けとなる、分かり易いフォーマットで分かり易い表現を使ったタイムリーな情報の開示



Mid-term CSR Goals & Actions FY2024 - 2026 Plan	
社会 社会から尊敬される企業となる: - 労働と人権 - 持続可能未来に向けた新技術とソリューションの開発 - 優秀な人材のリクルート、開発、保持 - 責任あるサプライチェーンの構築 - 社会貢献	S1. 高い職場安全衛生の維持 [継続中] OH&S に関する ISO 規格を維持する。 [継続中] 労働災害を最小限に抑えるため、安全衛生予防措置を確実に実施する。
	S2. 「社会的責任のある」アプリケーションを目指す製品/技術の開発の優先 グリーンエネルギー関連市場など、将来の成長市場に経営資源を集中・投下する。
	S3. 人材の多様性の促進 女性管理職：≥20%、日本人以外の管理職：50%、中途採用管理職：≥80%、取締役会&委員会の構成 S4. サプライヤーおよび輸送業者との協力体制の下、サプライチェーンを通して責任ある事業の遂行 [継続中] 長期的な製品開発の見通しに焦点を当てた、技術系大学やパートナーとの共同研究プロジェクトを獲得する。 [継続中] 環境、労働、人権に関する要求条項を含む契約を結んでいるサプライヤーの意識と数を向上させる。
	S5. コミュニティ参画/社会貢献 [継続中] 地域開発、環境保護、慈善活動、災害救援などのプロジェクトに地域社会と積極的に関わる。
	S6. オープンイノベーション研究の開発プロジェクト [継続中] 長期的な製品開発の見通しに焦点を当てた、技術系大学やパートナーとの共同研究プロジェクトを獲得する。



way2zeroのアップデート

2022年を基準年として、2030年までにスコープ1とスコープ2の排出量を42%削減するという明確な目標を掲げ、2024年4月にグローバルな行動計画を開始しました。当社が事業を展開する各国のエネルギー供給インフラを考慮し、排出量削減の機会と目標達成のための戦略を特定し、地域ごとの行動計画を策定しました。

環境	2020	2021	2022	2023	2024
エネルギー消費量 (MWh)	125,617	142,584	131,449	125,428	113,993
再生可能エネルギー消費量 (MWh)	5	5	7,839	23,090	20,473
再生可能エネルギー発電量 (MWh)	83	313	551	1,879	1,916
スコープ1 & 2 温室効果ガス排出量 (t-CO2e)	84,155	69,868	69,067	64,486	48,211
水消費量 (M litres)	674	713	898	990	823
有害廃棄物重量 (tons)	515	594	534	553	677
無害廃棄物重量 (tons)	2,587	2,981	2,943	3,278	2,927
ISO14001 認証を受けた事業所 (%)	90%	90%	90%	90%	87%
ISO14064-1 認証を受けた事業所 (%)	23%	23%	23%	27%	30%
ISO50001 認証を受けた事業所 (%)	5%	5%	5%	5%	4%

この表のデータは調整される可能性があります。

生産工程に関連するスコープ1と2の排出量は、CCF（コーポレート・カーボン・フットプリント）の計算に定期的に記録されています。当社グループの全拠点の具体的な目標と行動は、定義されたスコープ1と2の統合削減目標を達成するために、way2zeroワークストリームで定義され、継続的にモニタリングされています。

部品やモジュール製品を供給している当社グループにとって、開発から出荷までの製品カーボンフットプリント（PCF）は、原材料の採取から生産、工場出荷までの全ての排出量を反映するものであり、製品の研究開発段階や開発サイクルにおいて、お客様にとってますます重要な要素となっています。

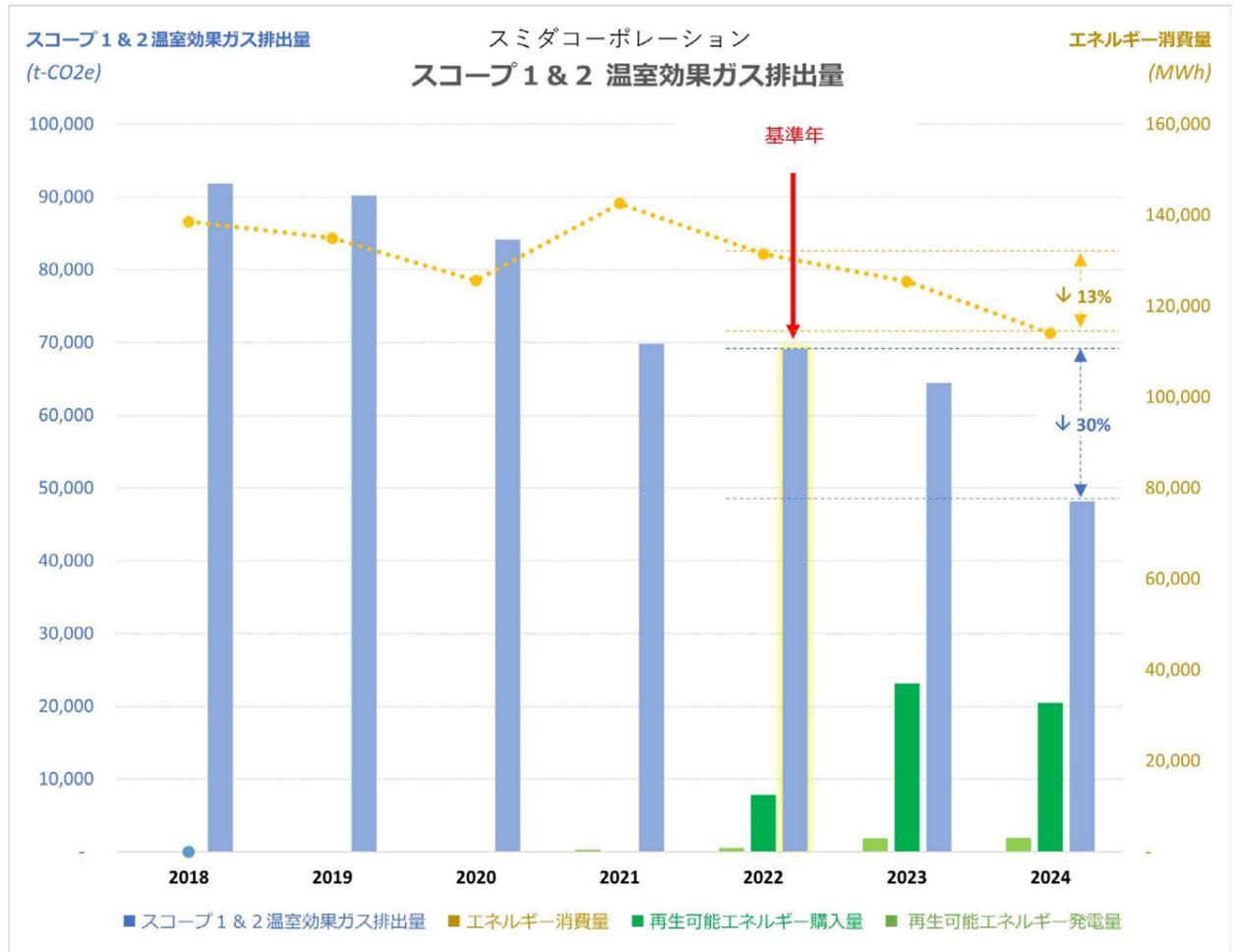
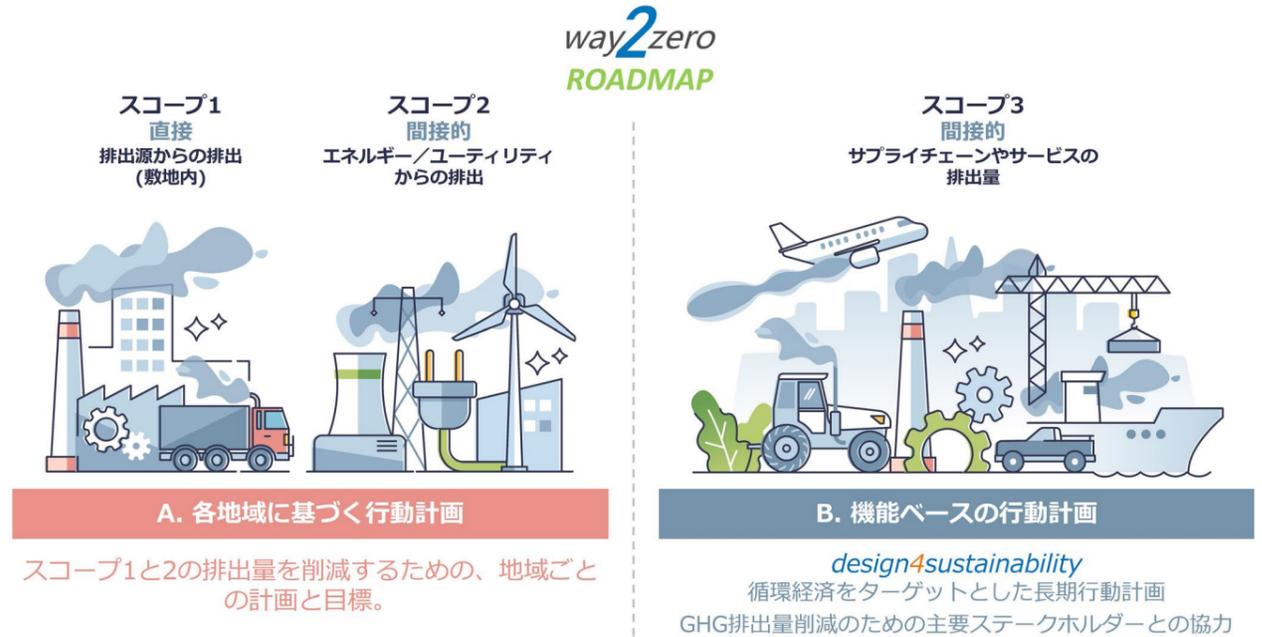
これらの開発から出荷までのPCFは、通常、BOM（部品表）上の購入材料からのスコープ3排出量が大半を占めており、短期的な削減が困難であるため、私たちは、スコープ3排出量のための別のワークストリームを立ち上げ、顧客とサプライヤーを巻き込んだ排出量分析、目標設定、行動計画に取り組んでいます。

注：CCFとPCF

GHGプロトコルコーポレート基準では、CCFを、企業のバリューチェーン全体に亘る全ての活動から排出される温室効果ガスの総量と定義しています。

GHGプロトコル製品基準では、PCFを、原材料の採取から生産、使用、廃棄に至るまで、製品のライフサイクル全体を通じて製品に関連する温室効果ガスの総排出量と定義しています。

出典 GHG プロトコル



TCFD Disclosure

ガバナンス

当社グループでは年1回以上、気候変動を含む環境関連の進捗状況、計画及びリスクについて、代表執行役CEOがCSR委員会等の活動結果を取締役に報告し、取締役会において取締役が報告内容を踏まえて協議をしています。

リスク管理

当社では、スミダグループが、日本国内外における法令を始め、企業倫理、社内規程を遵守してスミダグループの経営・業務を遂行し、また健全なリスクテイクの妥当性の検証又はリスクの極小化等、スミダグループ運営上のリスク管理を徹底し、効率的かつ有効な経営を実現することを目的とする「コンプライアンス及びリスクマネジメント規程」を定めています。

当社では、代表執行役CEOがその任にあたるリスクマネジメント最高責任者により、リスクマネジメント委員会を組織しています。リスクマネジメント委員会は、リスクを「企業にとってマイナスの影響をもたらす事象、換言すれば企業に予想外の損失をもたらされる不確実性」と定義したうえで、スミダグループのリスクを効果的かつ効率的に洗い出し、そのリスクを最大限に抑制ないし回避することを目的としています。

同委員会での議論をより効果的なものとするために、3年に1度、リスクサーベイを実施し、その結果を基に損害規模と発生頻度を基準にしたリスクマップを作成し、事業の推進及び経営の意思決定に役立てるよう努めています。2025年度にリスクサーベイを実施し、リスクマップを更新する予定です。

また、CSR委員会において気候変動を含む環境関連のリスクや機会を識別し、その進捗状況について年1回以上の頻度で継続的に協議を行っています。

戦略

当社グループでは、TCFD提言に沿った開示を進めています。当社グループのCSR委員会において認識している気候変動に関するリスク及び機会は以下のとおりです。

TCFDに基づく情報開示 - 気候変動に関するリスク及び機会



気候関連リスク	リスクの概要	時間的視点
緊急性の物理的リスク： 洪水（沿岸、河川、多雨、地下水）	より頻繁に発生する異常気象の影響により、操業が中断される可能性がある。	長期 (4~10年)
市場：変化する顧客行動	当社グループの顧客及びそのサプライ・チェーンは、異常気象の影響をより頻繁に受ける可能性があり、その結果、当社の製品に対する需要が相当期間延期されたり、大幅に減少したりする可能性がある。	中期 (1~3年)
新たな規制： カーボンプライシングメカニズム	特定の市場におけるカーボンプライシング規制により、エネルギーコストや一部の原材料価格が上昇する可能性がある。	中期 (1~3年)
気候関連機会	機会の概要	時間的視点
製品及びサービス	当社グループは、エネルギー効率の高いアプリケーション（電源、エネルギー効率の高い照明、電気駆動装置、再生可能エネルギーアプリケーション）向けの製品を設計、製造している。	中期 (1~3年)
市場	低炭素排出アプリケーションのための革新的なソリューションの提供や、様々なGHG排出削減イニシアチブを支えるサプライ・チェーンにおける良好な協力関係により、新規顧客及び既存顧客との新規プロジェクトを獲得し、ビジネスを拡大する。	中期 (1~3年)
循環型経済	サプライヤーや顧客と協力して革新的な製品設計を行い、製品におけるリサイクル素材の使用を増やすとともに、顧客の最終製品におけるリサイクル可能性を向上させる。	中期 (1~3年)

その他ニュース

タイ新工場の操業開始について

スミダグループのSumida Electric (Thailand) Co., Ltd.社は、2024年10月30日、ワンノイ新工場の操業を開始したと発表しました。同工場では、医療機器関連製品の受注量増加に加え、2025年度以降の医療機器関連新製品の投入に備え、開発・稼動を開始しました。2028年度には現在の約3倍の需要増を見込んでいます。



エレクトロニック・プロダクツ誌が、スミダのSMD樹脂シールド・インダクタを「受動部品部門の年間最優秀製品」に選出しました。(US)

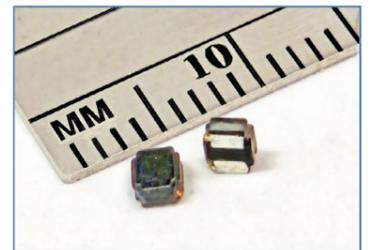
当社の新製品 CDxxxxMB/DS SMD 樹脂シールド・インダクタが、米国のエレクトロニック・プロダクツ誌の第49回受動部品部門において、年間最優秀製品に選出されたことを発表します。エレクトロニック・プロダクツ誌は、技術又はその用途において著しい進歩がある、極めて革新的なデザインである、又は価格/性能等の点で優れた製品を毎年表彰しています。

本製品は、樹脂シールド表面実装パワーインダクタです。この新しい設計では、磁気シールド効果と部品の機械的衝撃強度の両方を強化しました。

フェライト/メタルレジンシールド インダクタは、従来のドラム/リング コアシールド インダクタと同様に製造されますが、重要な違いがあります。シールドに外部リング コアを使用する代わりに、磁性粉末を含ませた樹脂のコーティングが絶縁銅巻線を包み、磁気シールドとして機能します。これらにより含浸樹脂シールドが磁束漏れを低減させ、オープン磁気インダクタの性能上の利点（高温上昇電流と広いインダクタンス範囲）を備えます。

従来のフェライト リング構造と比較して、樹脂シールド パワー インダクタは EMI 保護が向上し、サイズも小型化しました。オーバーモールドにより、湿気、ほこり、機械的ストレスからの保護が強化され、耐久性と信頼性が向上します。樹脂は放熱にも役立ち、様々な温度条件下でも安定した動作を保証します。

製品サイズは 3.2 x 3.2 x 1.2mm から8.3 x 8.3 x 4.2mmまで、幅広く取り揃えています。



サステナブルな未来のためのスミダの製品



スミダは、インプラント型刺激装置、医療診断装置、体外式除細動器などの医療技術に高品質のマグネティクス・ソリューションを提供しています。

医療及び脱炭素に関連するその他の用途における将来の成長市場に向けて、技術系大学と共同で新技術の開発に取り組んでいます。



通信用アイソレーショントランス、アイソレーショントランス

トランス、チョーク EMI 受動部品

パワーインダクター (THT・SMD)

RF セラミックコイル

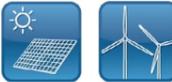
絶縁トランス (THT・SMD)

RFIDトランスポンダー

体内用遠隔測定コイル



当社は長年に亘り、グリーン・エネルギー技術（太陽光発電と風力発電）の世界的な展開をサポートする誘導型製品を開発している企業の中で、先陣を切って参りました。グリーン・エネルギー市場におけるコストと技術的性能の継続的な改善により、先進諸国では風力タービンや太陽電池を利用した、より大規模な公共インフラや家庭用設備の導入が進んでいます。当社の部品は、インバーターシステム全体で使用され、地域のユーザーや電力網との統合を可能にする電力変換（DCからAC）を可能にするのに役立っています。



バッテリー・ストレージ

この新たな規模の拡大により、ピーク時に発生するメガワットのエネルギーをどのように貯蔵し、回収するのが最善なのかが大きな課題となっています。この蓄電能力への要求は、拡張可能なバッテリーシステムを通じて、エネルギー貯蔵市場の主要プレーヤーが応えてきました。スミダは、数十年に亘る経験を元に、インバーター用カスタム誘導部品（共振トランス、ブーストインダクタ、BMSトランス、CMC、フィルタなど）によって、大規模及び小規模な蓄電池プロジェクトをサポートし続け、刻々と変化する設計及び電力レベルの要件にパートナー各社が対応できるようにしています。



リアクトル

EMC フィルタチョーク EMI コンポーネント

コモンモードチョーク

AC チョーク

ソーラーモジュール

Panta FIX ジャンパーケーブル



当社は、AI やデータセンター向けに、最高のパフォーマンスを発揮できる磁性部品を提供します。



ログフスキーコイル

電流センサモジュール

カレントトランスモジュール

ハイパワー急速充電

ソーラーモジュール



スミダは、自動車の安全性を支える磁性部品市場のリーダーとして高信頼性のインダクタ、フィルタ、トランス、及びソレノイドを提供しています。これらは重要なアプリケーション（ABS、エアバッグ、衝突回避、バック警告、安定性制御、車線逸脱等）において自動車の至る所で利用されています。各車両において、これらの技術が連携し、乗員の安全を確保するとともに、交通環境全体の安全性向上に貢献しています。



これらの新しい技術とともに、スミダは独自の磁気設計技術を活かし、あらゆるタイプの電気自動車（xEV）の普及と、充電インフラ拡大を支援しています。これらのアプリケーションは、世界的な電動化の推進に大きく貢献し、将来の化石燃料依存の低減とCO2排出量の削減に貢献します。



高耐圧タイプトランス

電源トランス

カレントトランス

PFC モジュール

SMD トランス-CEEH158

ゲートドライブトランス

DCウォールボックス充電器

EMIフィルタ



気候変動対策は、ターゲットとする市場だけでなく、設計・製造プロセスも考慮した、当社の中長期戦略の重要な対策です。



当社は、最先端のマグネティクス（インダクタ、トランス、コモンモードチョーク、モジュール）を使用して、電力供給者と消費者の両方が将来に亘り、エネルギーとコストを管理する方法を変革する最新の双方向Vehicle-to-Grid（V2G）及びVehicle-to-Home（V2H）充電技術に注力しています。

V2G

このような先進的なインフラ・ストレージのアイデアと協調して、ますます多くの先進的な地域が、電気自動車（EV）の急成長をエネルギー・ストレージ・エコシステム内のバッテリー・セルとして活用しようとする先進的な地域が増えています。これらのV2Gシステムは、新しい双方向充電システムを介して、地域全体のガレージに保管されている電気自動車を蓄電池として利用することができます。これらの新しい双方向システムは、車両からグリッド又は家庭へのエネルギーの往復を可能にし、全体的な蓄電能力を補うだけでなく、ピーク時の自動車需要からエネルギーを供給することもできます。スミダのカスタム誘導部品は、現在、そして今後数十年に亘り、この世界的な動きをサポートし続けます。



リチウムイオン電池監視用絶縁トランス

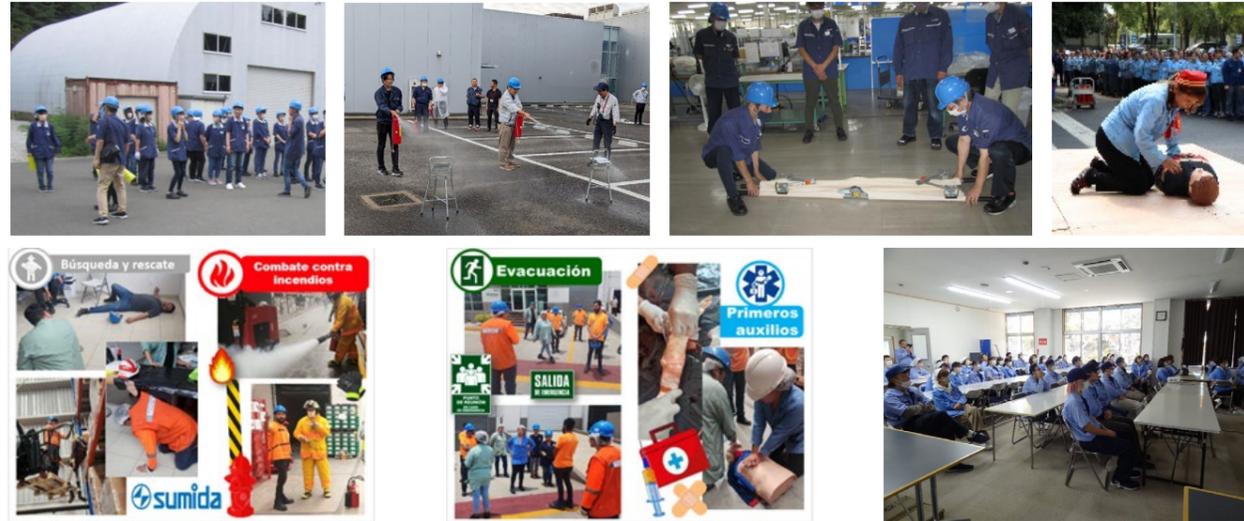
AC/DC チョークモジュール

フィルタチョークモジュール

オンボード受電ユニット

2024年度スミダCSR活動の紹介

当社のCSR活動は、環境保護に関する取り組みから、従業員の福利厚生と安全性の向上、地域社会との関わりの育成、技術の進歩の紹介まで、多岐に亘ります。



労働安全衛生トレーニング



恵まれない子どもたちへの寄付、災害救援、血液バンクへの寄付などの社会奉仕活動



様々な年齢の子どもたちを対象とした教育ツアーやワークショップ



従業員の福利厚生を目的としたスポーツやチームビルディングのソーシャルイベント

最新企業情報

ガバナンス強化の取り組み

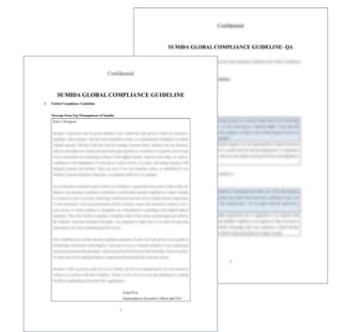
2024年の当社取締役会の構成は以下の通りです。

1. 独立社外取締役 5/7 (71.4%)
2. 外国人取締役 2/7 (28.6%)
3. 女性取締役 1/7 (14.3%)

また、指名、監査、報酬の各委員会の議長は独立社外取締役です。当社は2003年に委員会等設置会社に移行して以降、一貫して独立社外取締役の比率が過半数であり、外国人取締役が就任しております。2019年以降は女性取締役が就任しており、ジェンダー・ダイバーシティの強化に取り組んでおります。

グループ内コンプライアンス研修

2024年も、当社グループ各国の拠点で、グローバルコンプライアンスガイドラインについてのコンプライアンス研修を実施いたしました。当年は、2023年の研修項目以外の、より幅広い項目について、研修を実施いたしました。本ガイドラインに示された原則、価値観、方針の更なる理解と実践を図るべく、このようなグループ内研修は今後も継続して実施いたします。



取締役(左から): 早川 亮、アルバートキルヒマン、土地 順子、梅本 龍夫、八幡 滋行、上野 佐和子、范 仁鶴、本多 慶行

取締役会の実効性評価

当社は、持続的な企業価値向上に向け、コーポレート・ガバナンスが有効に機能しているかを検証し、適切な施策を講じるために、取締役会等の実効性に関する分析・評価を毎年実施しています。2024年度の実効性評価等の活動を対象とした評価を2025年1月に実施いたしました。

評価方法

取締役7名に対して、取締役会及び指名委員会・報酬委員会・監査委員会・リスクマネジメント委員会を対象に、9つの大項目からなる計61項目の設問によるアンケート形式で実施し、集計・分析を踏まえ、その結果を取締役に報告いたしました。

【アンケート項目】

取締役会の構成・運営、戦略に関する議論・監督、リスクに関する議論・監督、経営陣の評価・報酬、株主との対話、指名委員会・報酬委員会・監査委員会・リスクマネジメント委員会の実効性

評価結果

アンケートの結果、適切又は概ね適切であると評価する意見が多数確認され、取締役会等の実効性は確保されていると判断いたしました。

一方で、さらなる実効性向上のために、特に以下の事項を課題として認識し、取り組むことといたします。

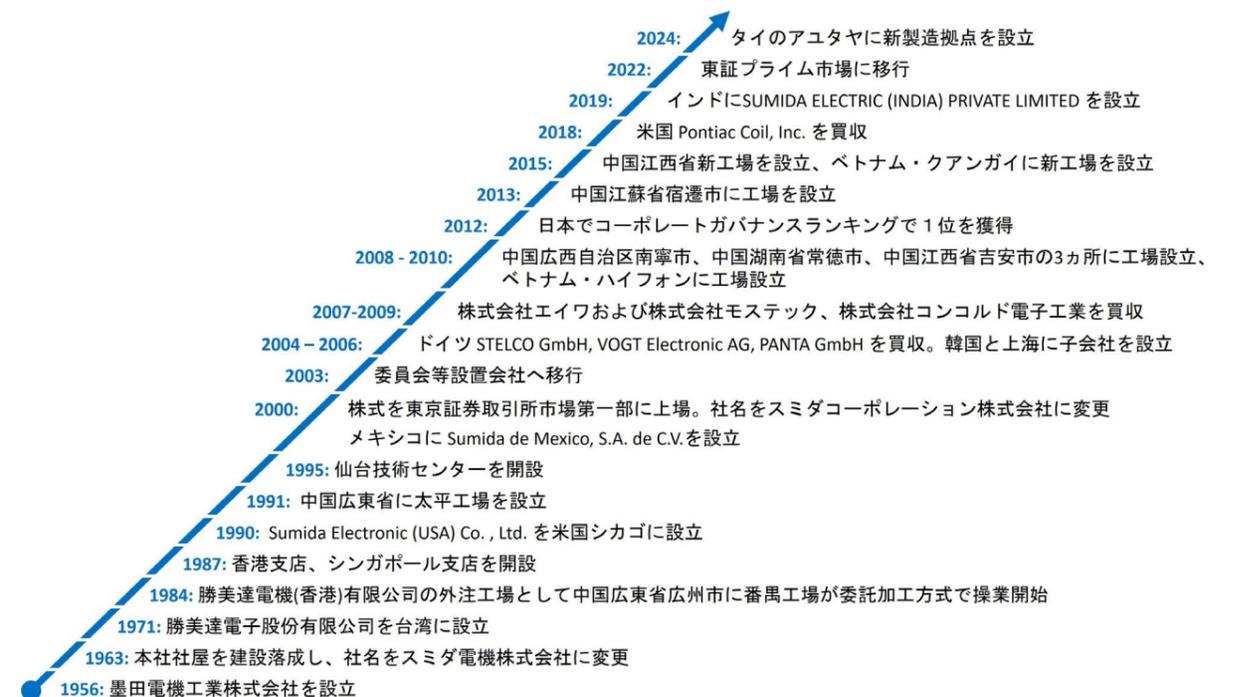
1. CEOサクセッションプランについて、十分な時間をかけ議論を深めていくこと。
2. 執行役インセンティブプランの業績評価基準の多様化を検討すること。
3. サステナブルな成長に向けた経営資源の配分について、議論を深めること。
4. DX推進によるサステナブルな企業価値を高める目標に向けて議論を深めること。
5. リスク及び潜在的なリスクの情報共有の早期化により適切なリスク対応を目標に向けて議論を深めること。
6. 社内の内部通報制度の透明性の向上に努めること。
7. 執行側は、資料配布の早期化をより一層進めること、また、追加資料は取締役からの要請に応じて速やかに提供すること。

当社取締役会は、これらの課題遂行を通じて、取締役会の実効性の向上に引き続き取り組み、コーポレート・ガバナンスの一層の強化に努めてまいります。

スミダの歴史



沿革



www.sumida.com

スミダコーポレーション株式会社

〒104-0042 東京都中央区入船三丁目7番2号 KDX銀座イーストビル7階

TEL: 03-6758-2470

FAX: 03-6758-2472